

平成26年度活動報告書 (1/1)

学部・委員会名 短期大学部 (生物生産技術学科)

学部長・委員長等氏名 短期大学部長 安藤達彦

担当所管 生物生産技術学科

テーマ プレゼンテーション力の向上と地域貢献の充実

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)

1. 教員と学生との協同による研究活動の活性化をはかる。学生と教員のふれあう研究環境を築く。
2. 学生の研究・実習を通じた専門教育充実とプレゼンテーション力の向上をはかる。
3. 学生の進路に応じたきめ細かな教育の実施。留年生，原級生を少なくするべく面倒見のよい指導の推進をはかる。
4. 地域連携を視野に入れた教育・実習の充実と強化をはかる。

2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)

1. 各分野の教員が学生との触れあいをもって研究活動に取り組めるよう，授業・種々行事等に関わる時間配分の見直しを行う。
2. 全学生が研究テーマをもち，調査・研究に関わるとともに必ずプレゼンテーションを行うことを義務づけて社会で活躍出来る人材の育成をはかる。
3. 学科会議等を通じて学生の履修状況，生活状況等の情報を共有し，専攻教員，担任などが即座に対応・支援できる体制を強化する。
4. インターンシップ，実習，課外活動等を通じて，さらに研究活動をも含めた地域との交流をはかる。

3. 達成度を判断するための指標

1. 自己評価の実施。学科会議を通じて業務の配分等の見直しを行う。
2. 調査・研究・発表会などに教員が積極的に関わり合い，評価を行う。
3. 学科会議等を通じて状況把握を行い，複数の教員で状況を共有する。
4. どのような地域連携に関わっているかを全教員が把握する。訪問回数，連携に関わる成果報告・レポートをもって判断する。全教員が関わり合えるよう報告書の閲覧等を実施する。

4. 成果・評価

■成果

1. 現在途上である。自己評価は行っている。その結果として、授業分担バランスをとっている。
2. 研究・卒論発表会など、研究室単位・学年単位で行っている。その結果として、プレゼンテーション力の向上が図られている。
3. 毎週学科会議を行っており、情報を共有し、学科運営がスムーズに進行している。
4. 農家との交流など積極的に行っているが、全教員が平均的にかかわるところは、途上である。引き続き、次年度も行う。

■評価（5～1 で記載してください）

3

5. 課題及び改善事項

引き続き、目標に基づいて次年度も努力する必要がある。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (1/1)

学部・委員会名 短期大学部（環境緑地学科）

学部長・委員長等氏名 短期大学部長 安藤達彦

担当所管 環境緑地学科

テーマ 実社会で活躍できる技術者を養成する。

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

- (1) 学科ポリシーに則したカリキュラムの充実と研究室指導、授業の改善
- (2) 学生の個性や進路希望に応じた、キメの細かな教育、研究指導
- (3) 実学を主体とした実習、課外活動や体験活動を軸としての地域との連携強化
- (4) 学生の学習や体験における場とその機会の拡充
- (5) 短期大学部における学科協働による学生指導の推進

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

- (1) 各分野のカリキュラムの内容、時間等の再検討・精選とその内容に則した授業の再編、シラバスの作成を行う
- (2) 研究室ならびにクラス担任等教員間相互の連携を密にし、毎週の学科会議等において情報交換、意見交換等を通じ、個々の学生の状況について把握し、理解する。
- (3) 大学との連携協定締結地域の特性を活かした、実習・体験活動・卒業研究等の諸活動および動植物・景観等の調査を行うことによる地域貢献を通じた地域社会との交流を図る
- (4) インターンや各種実習において、実社会で活躍する卒業生や現場技術者、研究者等による指導や交流の機会充実を図る
- (5) 短期大学部共通授業や行事を通じた学科間の教員、学生およびそれらの相互交流を行い、学生の視野の拡大とともに教員の指導力の向上を図る

3. 達成度を判断するための指標

- (1) 授業や研究室指導における教員と学生の自己評価および学生の満足度調査を実施する
- (2) 学科会議等での事例報告を通じた現状確認を行う
- (3) 各種活動参加への呼びかけと活動報告会等を開催する
- (4) 学生の興味や進路に応じた体験・学習の機会を提供し、レポート等による評価を行う
- (5) 各学科教員への積極的参加の呼びかけと授業参観、交流会等を実施する

4. 成果・評価

■成果

- (1) 実施している。その結果多くの学生が本学科の目的にあった授業・研究室での指導に満足している。
- (2) 学科会議などで毎週現状報告行っている。その結果、学生の就学および学生生活の動向や状況について報告を行っている。
- (3) 満足度アンケートなど活動ごとに行っている。その結果、地域農家との交流が学生の貴重な体験になったとの声が多かった。
- (4) 行っている。その結果、インターンシップ参加レポートを通じて、学生への個別指導を行っている。

(5) 短大共通科目など、機会を設けている。今後も学科外教員との交流もさらに積極的に行うべきである。その結果、学科教員の専門外の知識・技能の向上に役立っている。

■評価 (5～1 で記載してください)

4

5. 課題及び改善事項

目標に向けて続けることが必要と考える。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (1/1)

学部・委員会名 短期大学部（醸造学科）

学部長・委員長等氏名 短期大学部長 安藤 達彦

担当所管 醸造学科

テーマ 実学主義に基づいた授業の展開と、学生生活の充実

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

1. 醸造学を学ぶためのカリキュラムの充実と研究室指導、授業の改善
2. 学生の研究・実習を通じた専門教育の充実と教育研究指導
3. 実学教育に基づいた、学外実習・演習の充実
4. 大学行事を通じての、学科協働による学生教育の実施
5. 課外活動を通して、学生生活の充実を図る

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

1. 各分野のカリキュラム内容を再検討し、内容の充実と再編・シラバスづくりを行う
2. 学生全員が研究室配属されていることから、研究室活動を通じて学生の指導を行う
また、研究発表を通じてプレゼンテーションの向上をはかる
3. 学外実習により現場を体験させ、実社会で活躍するOB・OGや現場技術者・研究者との交流を図る
4. 短期大学部共通授業や行事を通じて、他学科の学生との相互交流を行い、視野の拡大をはかる

3. 達成度を判断するための指標

1. 自己評価の実施。授業評価により授業の見直しを行う
2. 学科会議において、学生の理解度や授業受講状況の把握を行い、学科教員全員で個々の学生の状況を把握し指導体制を充実させる
3. 課外活動などは、レポートやノート提出により理解度を把握するとともに、実習先での評価により達成度を検証する
4. 学外実習企業に教員が出向き、学生の実習状況を検証する

4. 成果・評価

■成果

1. 自己評価など行っている。その結果、円滑な学科運営が行われている。
2. 問題の多い学生は、学科全体で意見交換を行い指導している。その結果、退学者が減少している。
3. 学外実習は、ノート・レポート提出により達成度を検証している。その結果、個別指導を行い、理解度が高まっている。
4. 実習状況の把握のため教員が実習先（全てではない）に出向いて検証できている。実習先と密接な連携を図ることにより、実習状況の把握とカリキュラム改善に努めている。

■評価（5～1で記載してください）

4

5. 課題及び改善事項

次年度も引き続き目標どおり行うべきである。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (1/1)

学部・委員会名 短期大学部（栄養学科）

学部長・委員長等氏名 短期大学部長 安藤 達彦

担当所管 栄養学科

テーマ 社会のニーズに合わせた栄養士養成と研究活動

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<ul style="list-style-type: none"> ① 栄養士実力認定試験の実施 ② 地域社会と連携した食育活動の推進 ③ 研究活動の活性化のための外部資金獲得への積極的アプローチ
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<ul style="list-style-type: none"> ① 栄養士実力認定試験の実施 12月に実施される実力認定試験に向けて、4月上旬に卒業年次生に実施することを告示し、問題集を購入して、スクール形式で解説を行いながら受験体制を整える。 ② 地域社会と連携した食育活動の推進 現在行っている世田谷区内の近隣小学校との食育授業実施のための連携を継続する。 ③ 研究活動の活性化のための外部資金獲得への積極的アプローチ 科研費等の外部資金獲得のためのアプローチを行うとともに、関連する学会に積極的に参加し、研究推進のための情報収集活動を行う。
3. 達成度を判断するための指標
<ul style="list-style-type: none"> ① 栄養士実力認定試験の実施 受験者数の把握と、実力試験の結果得られる個人のランクを把握し、トップランク者の割合により達成度を評価する。 ② 地域社会と連携した食育活動の推進 実際に小学校で実施する授業回数と学校評価における食育の認知度を持って評価する。 ③ 研究活動の活性化のための外部資金獲得への積極的アプローチ 教員の学会発表数、外部資金アプローチ数を把握する。
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実施している。その結果、個人の実力の向上が図られている。 ②食育認知度は上がっている。 ③学科教員全員ではないが、ある程度行っている。 <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p style="text-align: center;">3</p>
5. 課題及び改善事項
引き続き、目標に向かって努力する。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。